

タイトル… 汐製菓会社の新作… キャンディ★

登場人物

- ・ 汐（しお） – 30代、汐製菓会社社長。
「面白きことも無き世を面白く」をモットーに、奇想天外な菓子商品を発案する快活な性格の持ち主。
- ・ 塩田（しおだ） – 30代、汐の秘書。真面目で心配性。汐の突飛な発想にいつも振り回されるが、実は大のお菓子好きで、それが理由で製菓会社に就職した。
- ・ バイヤーン – 落ち着いた性格で、無難な商品を好む。
- ・ バイヤード – 冒険心旺盛で、珍しい商品に目がない。

- ・バイヤーのー外国人のバイヤー。好奇心旺盛で、新しいものに敏感。
 - ・バイヤーローロうるさいバイヤーで、品質と味に厳しい。
-

シーン一：汐製菓会社の会議室

（会議室の中央に大きなテーブルがあり、資料が散らばっている。窓から日差しが差し込み、壁には「新作発表会」のポスターが貼られている。）

汐：（資料を見ながら）塩田、今度の新作、どう思う？

塩田：（不安そうに）ええと…社長、「お茶漬味のキャンディ」というのは、ちょっと過激すぎるんじゃないでしょうか？キャンディとお茶漬けて、普通は結びつきませんし…。

汐…（自信満々に）だからこそ、面白いんじゃないか！「普通じゃない」が我が社の売りだろう？人々が驚くようなものを作らなきゃ、製菓業界で生き残れないんだよ、塩田君！

塩田…（心配そうに）でも、社長…お茶漬の味をキャンディにしたところで、誰が買うのでしょうか？国内外の人々にウケるかどうか…。

汐…（目を輝かせて）それが挑戦だ！「お茶漬けキャンディ」は、きっと大ヒット間違いなしだ！お茶漬けの塩味とキャンディの甘さが絶妙に混ざり合う…そんな驚きと感動を提供するんだ！

塩田…（内心の動揺を抑えつつ）わかりました、社長。では、試作を始めますね。（心の声…まさか、本当に作ることは…。でも、お菓子好きとしてはちょっと気になるかも。）

シーン2：試作室

（広々とした試作室に、さまざまな調味料や道具が並んでいる。中央には大きなステンレス製のテーブルがあり、試作中のキャンディが置かれている。）

汐…（手を叩いて）よし、塩田君！まずは試作だ！お茶漬けの素をたっぷり入れて、キャンディを作ってみよう！

塩田…（道具を準備しながら）社長、キャンディにお茶漬けの素をそのまま混ぜるんですか？どんな味になるのか、想像もつきませんが…。

汐…（笑顔で）それでいいんだ、塩田君。世の中の常識を覆すのが我々の仕事だからな！
さあ、やってみよう！

（塩田は慎重にお茶漬けの素をキャンデーの材料に混ぜる。結果として、奇妙な色合いのキャンデーができあがる。）

塩田…（キャンデーを見つめて）できました…お茶漬けキャンデー…。ちよつと恐ろしい見た目ですけど。

汐…（大興奮で）さあ、試食だ！

（汐と塩田と一緒にキャンデーを口にする。最初は躊躇していたが、勇気を出して一口。）

汐…（目を見開いて）うおおおお！これは…！

塩田…（驚きの表情）意外と…いけますね！甘さの中に塩味が…不思議なバランスです。

汐…（大喜びで）やったぞ、塩田君！これは大成功だ！この味なら、国内外の人々にウケること間違いなしだ！

シーン③：汐製菓会社の新作発表会

（大きな会場で、新作発表会が行われている。壇上には汐と塩田、そしてメディアやバイヤーたちが集まっている。）

汐：（堂々と壇上に立ち）皆さん、お集まりいただきありがとうございます！今日は、我々汐製菓が自信を持ってお届けする新作キャンディ「お茶漬け味」をご紹介します！

（会場がざわめき、驚きの声飛び交う。）

バイヤーA：（戸惑いながら）お茶漬け味のキャンディ…？そんなものが売れるのか？

バイヤーB：（興味津々で）いや、逆にこれは面白いかもしれないぞ。試食してみたい！

バイヤーC：（外国人のバイヤー、微笑んで）お茶漬けキャンディ？日本らしくてユニークだ！ぜひ試してみたいね！

バイヤーD：（眉をひそめて）ふん、品質と味が重要だ。そんな奇抜なアイデアが成功するとは思えんが…。

汐：（自信たつぷりに）そうです、皆さん！これまででない驚きの味わいをお届けするのが、汐製菓の使命です！さあ、ぜひ試食をどうぞ！

（汐と塩田は試食用のキャンディを配り始める。バイヤーたちは恐る恐る口に入れるが、その表情は次第に驚きと感嘆に変わる。）

バイヤーA：（感嘆して）なんだこれは…！思ったよりも美味しい！

バイヤーB：（笑顔で）これは新しいヒット商品になるかもしれないぞ！

バイヤーC：（目を輝かせて）驚いた！このユニークな味、海外でもウケるだろう！

バイヤード…(しびしびながらも)ふん…意外にも悪くない。市場に出してみる価値はあるかもしれない…。

汐…(満足げに)ありがとう、皆さん！これが我々汐製菓の新たな一歩だ！

シーン④：会社のオフィス

(新作発表会が終わり、汐と塩田がオフィスに戻る。)

塩田…(安心したように)社長、お茶漬けキャンデイ、意外と評判が良かったですね。私も少し心配していましたが、やってみるもんですね。

汐…(満足げに)そうだろう、塩田君。常識を打ち破ることで、新たな可能性が生まれるんだ。我々の仕事は、ただの製菓業じゃない。夢を作り出すことなんだ。

塩田…（感心しつつも微笑んで）そうですね…でも次回はもう少し普通の味に挑戦してみませんか？

汐…（笑いながら）それはつまらないだろう？
さあ、次は何に挑戦しようか…！

塩田…（苦笑いしながら）また振り回されるんでしょね…。

（シーンの終わり。二人が笑い合いながら、次の新作について話し始める。）

エンディング

（会社のロゴとともに「フォロ」の文字が浮かび上がり、コメディタッチの音楽が流れる。）

エピローグ（数ヶ月後）

(テレビのニュース画面に切り替わる。)

ニュースキャスター…(報道中)「お茶漬けキャンディ」が国内外で大ヒット！日本の伝統的な味わいをキャンディで再現したという斬新なアイデアが、多くの人々に受け入れられます。この成功により、汐製菓はさらに注目を集めています。

終わり